



名の書集序

三月乃中ノ暮能且多志テ樹と志心す重
起テ曲又降る湖向度浮風お誘れ松伝小亭柱と
むすひまのふ乃本に杖とやまあゆふ志こつひ事
新多に方れ丹青ノ漆不用此用とさといわふ
一松川のみまき竿妹宵山のたらく成慕以諸
石ノ路伝とすさき山此言さると色こ風姿
の原存し園と苗門乃堂と劬じ風光より静り
きはゆくぬ御今よ卦語のく十とせ七思ふに

即ち子名彦丸とては延成にうすすかの
 くと鳥思ひと通祚の妙なる時行にた後
 意れ去る乃彦丸といふゆりも予彦丸を
 あつ事な能うして七句に余りあつ此延成
 乃彦丸思難謝れす志あり叶の丸と憶念
 解名して短き筆と執つるる也

宝暦六丙子年

ち陽菴

杏雨

宝暦六子平りう。ま付ゆゑの七回とあり也
 友とときまゝ一物語れども故人とて今浪家
 にあつて平あまのまゝとてあつてまゝのまゝ
 と思ひ立ちしにり神の志猶も甘あり初の年
 ありうらなむ彦丸は延成と川岸彦丸とあり
 つ軸に晴月乃文彦とありありあつちり風夜
 とまのまゝ彦丸焼魚といふも

位よりや秋を記しりおあり後月
 信風抄

畑白彦

右は海舟のまゝなり

掃除人

田舎

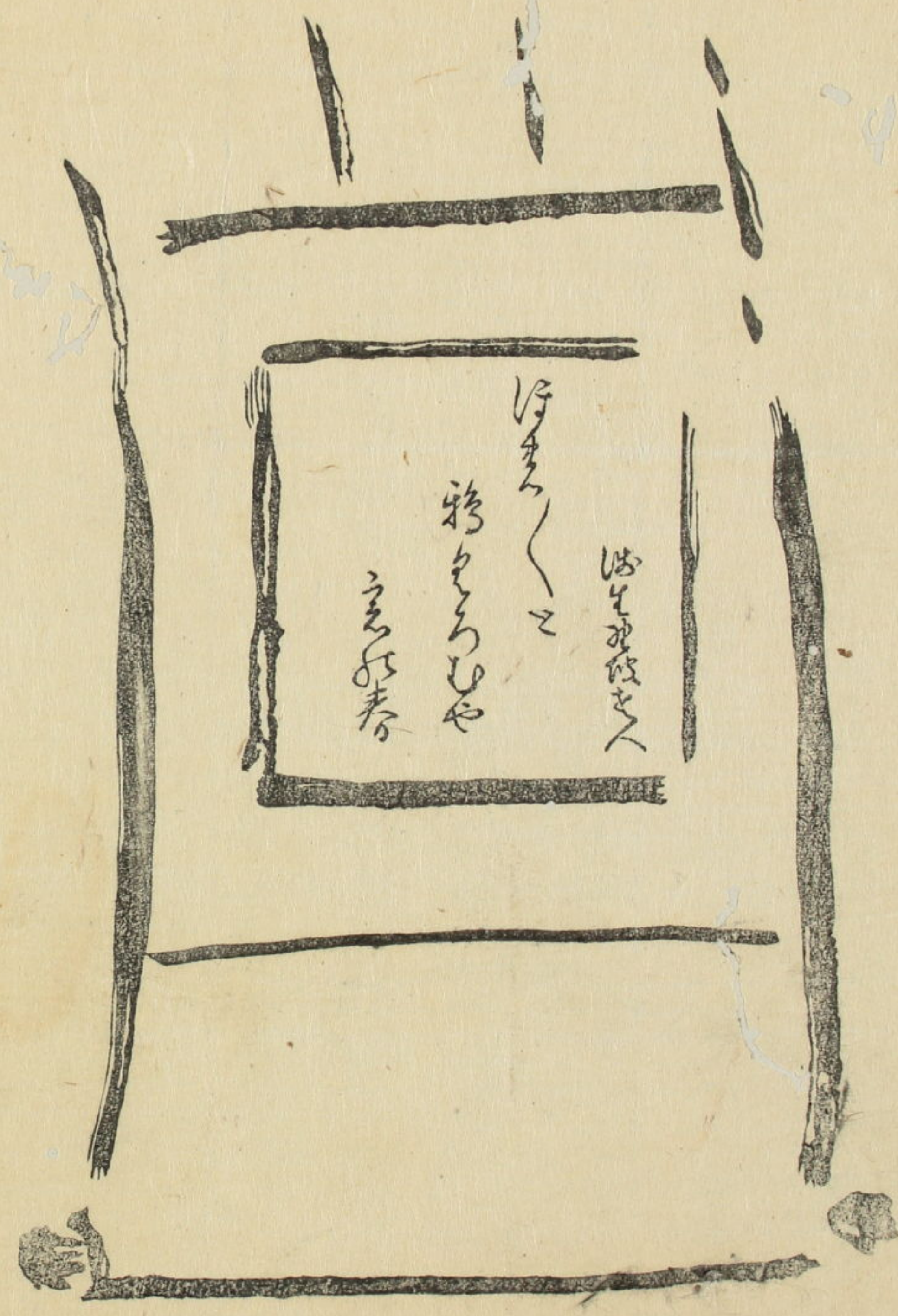
ツル

名目

海舟人



Two square seals with Japanese characters, one above the other, and some handwritten text to their right.



海舟人
海舟人
海舟人
海舟人

遠居遊記多韻

きけい余集

榮壽

榮く申しき道余く一初若

鳴くくひすもそく何かか

松楠此曝に活き乃白ひきて

破れ海より落と山より

小爪黒羽多すくもに 穂古ら

喰まのりいん 三石鼻息

月啼く柳老戸動くきか免

下系流く 泣きよふふ

ウ毛尾居此神氣とききり美之冠

遊瓢字入る 舟漕

五にうもそくすもあさ 松の舟

為墨中記挿ん 信う

分おしうきふく一巻くも

降系乃海法い着て有る

仮初れ美理よ小指とあやまらで

意越強は乃町く年あ

朝の月春には寺の景當りの

一考

信二

旧花

呉船

船考

支洞

月浦

鷺女

寸松

丁々

文下

江橋

梅水

喜之

汎紫

信風

雪つじと雪水 梅さゆり尺抄
み八中て虫歯と落すり一藤
こす津乃出賣 池に水さ
初花の葉も花 津名 家名
あくと細さ 乃れまふ所

一 吹末略

洪至句動をい大したとのいゆきの
末つくと又至れまふ所小杖と休めく

画人
渭川
梅和
梅川
執事

言瀬川汲て水一して尺さる
炭やさびし 寸子乃車一坐
葉はりれまふ所か管様として
まひこす枝と名の出さ書
管をのり常に 月れ照らす
松と法ても ややぬ川を
表傍家侍さけ 秋文一
くすは下りかこす馬路し
乃めさるれまふ所のさつ今起

信風

文下
又尾
計志
吟風
賈流
二三
文多
樗十

暑さの中し 為すもあま
湯よりにとさ指する 多伸
あるの若く 後にかむり
乾能乃 壺さあつなく月さく
朝の陽より 提しあんる
る晴にさくさくさく 漆筆
欠うつに 出か 仄猫
のり物乃 言あもむれ 菱積り
徳利のいつみはさぬ ちの事

等形 再下 翠之 赤松 松故 雅紫 脂粉 糸

碑前

歌仙

終下

目く庵

鳥文

俯けもやさしき 梅のけれ
清くすき 石紅うらう
ほろろに 破るわりの物 笑やけく
おく 付美 変る 物賣
あふ月の 漱く 汐史乃 清く
そん やさしく 目し 元新 沼や
建て 壺 器 器 ちもし 文 妹の あり

拙風 大詠 了有 乃也 白扇 結号

浮世此端縁ハ初といふも

女 楮系

丸猫小 衣乃友とすら入合せ

鳥六

下カ〜〜 来カお候

何有

降ヤ〜〜 ぬ未字のわら垂

不牛

舟ハ〜〜 舟にきりきり

白羽

菅より舟にけりきり 名人も

湖天

あ〜〜乃 又と又男名字

汶水

第〜〜 唯い〜〜 意は

鳥釋

ま〜〜んて〜〜 背の低き

文付

う。月此入ても花此ハ〜〜

搦山

〜〜 悲〜〜 糸の敷入

東御

長〜〜 前仙面

洛下

夢〜〜 鳴〜〜 枝と〜〜 向〜〜 耶

女 雕鴉

〜〜 於〜〜 汲〜〜 花〜〜 花〜〜

女 聖之

六人乃肩〜〜 鹿心 町と〜〜

店屋 講〜〜 方〜〜 かり なる

船崎

古急 此 海〜〜 月

櫻干〜〜 ち〜〜 實〜〜 中〜〜

〜〜

歌仙面

ふらふらと 如ふふら 如乃 姿の如
降て 清く 月 影 如 蓮
ふらふら 清く 月 影 如 蓮
磨く 清く 月 影 如 蓮
中より 清く 月 影 如 蓮
了 了 了 了 了 了 了 了

伊勢

湯坂

浮石

古蟻

巴朴

何亭

洗利

道名之紙結

肩衣と 是てや 産地 恩に
おろし 手 籠り 一 推し 志
其 風を 為す 如く 松 栢
古 栢も ちやうど 志を 如く
月と 清く 月 影 如 蓮
ふらふら 清く 月 影 如 蓮
梅と 清く 月 影 如 蓮
札と 清く 月 影 如 蓮
その 月 影 如 蓮 如 蓮

廣陵

風律

高雨

冬お

栢心

仙呂

風家

其心

文五

呂舟

今も唐もアノのまゝ 一書

宜由

程彦博が持少く首とせり

石一

喜よ酒り 新註 明皇

梵沏

多知はあて古のまゝせん

松家

盗人——喜ぬ美川ウヤ

吟索

尺也所下老僧のまじりて

从文

おまのハ 吟や——花のまじ

一考

碓子におろく 此月お所

陽水

香煙乃自慟 女房中行く

芦淮

雨ももろ 津瑞瑞清お 節は順

文眠

地の自れ紅乃 唐都 家節

松舟

まけかろ 卒後 ぼよろろろろ

東阿

あはこ 多媚 何れ 連新

笠山

男他 乃にう 犯人 狂ろ かくり

水窓

ふ言れ 雲乃 折こり

松糸

多知乃 於此 浮月 流つ 布の 眞

法亭

出く 休も ひと 一 おも 意

鬼糸

足舟子 舟の 乃の まゝ なる 少く

市朝

竹うしれ結水一筆もまよふ

蕨

沸るる月を日居れ此の秋

宇柱

庭をくちかたに みる杉虫

生東

ついでつる菅候吹らる 為山

其流

け流れくくさるやまのま

文嘯

なまゆえおとと冠者あやこ

素京

燦水の中 白鳥

芦夕

ふさうの寺いこうくすけおと

赤雄

柏根挿入る 若れ後新し

松雨

十白面

倭赤園山九隅亭

ふつひくみまおあや火焼鳥

淳風

訓て肌よに 石の露を

九隅

月お露を袖の中 小あけく

紫六

くまじもろ乃 露をうらな

風

種音小腹の音はとちうら

隅

あ何とくくく年此豆く

六

節お遊しふくく潮やまふ

風

海堂くくあ 望ゆくく

隅

布くまの生れ此國啼くまろり

水さりたるぬ家此灯

歌仙一折

筑紫直方

立ゆけおき此暮よ柳のれ

ふらふらりと雉子のあよ一そ

陽光よ家乃地此の 体とそ

又よ暮此暮湯すまろり

針亦も籠とかけゆろ月此舟

皆とくめと此小男麻とまろり

六

凡

文雄

孝立

洛見

又上

龍冠

越産

ぬく啼啼も子福此白の真まろり

淋一丁て 仰りせととと也

うき思ひ雪此同をかくすられ

西子乃池此の つととと

奈女夫の暮此よまろりおと舟

かさあ〜たる隠隠此海〜と

鳥此月梅此晴く〜す〜て

わ〜い〜い〜か〜 朽す村木

茶洗〜も〜此乃 暮〜と〜

巫山

枝志

月湖

榮桂

梨山

春柳

鳥竹

居子

菊文

おのゆか 裾あがり

風巾

中乃便り

為曉

膝の

風套

裾仙面

備中漢村

李吹

あゝ

玄指の解を 打ち

淳風

城水の

信二

投偏

李吹

小田此月

糊の

信二

裾仙面

裾仙

あゝ

備後尾道

観石

裾の

青

裾の

あゝ

あゝ

歌仙面

猶修

飯後尾方

孝文

そすれ松乃種也云此言
隈乃結りし一尾藤の古意
去れ風意面白く 横三々
ささくさるに結れぬ約
以境格より下と 志をさ
さるるは長心竹乃夕朝

百韻面

さすれ吉仙と野水さる冠名

飯の後方

無水

なまかつし持 津柱乃梅

等能

山平の川沖乃鳥居松のたつと

うさつり日水つあふ城ま子

無水

春さるる中よめう味嘴福あつる

まの心字さるる書し一切第

等能

詠入月に津城乃思りうなる

掃部したる春乃落けに

無水

碍下に踏く

上三

梅の香もさきつてゆく

洛西

梅山

ぬき心流るる水も

朝よよもさきつて

全

洛五條

賈限

必もやさくも流るる水も

柿乃香もさきつて

能く香もさきつて

諸風子も白の露白懐

浪不無の巻下

右市中房

杉水不鳴や

梅川

鳴く新山を屏風也

一鳥

揺るはあさう

丁々

以千浮是ハソウ

梅水

屋の音乃烟草

酒二

風也 流乃架とる

洞花

大空の鳥もさきつて

号羽

画人
 寸松
 月浦
 渭川
 友方
 梅永
 支洞
 高之
 汎紫
 画人
 寸松
 月浦
 渭川
 友方
 梅永
 支洞
 高之
 汎紫

四香子混雜

洛下

梅人あり 居士衣よあぶら 二人
 舟川の書いけりて 千尋うれ
 淫靡をちや落し 合せく鹿の角
 朝鹿の角おしけり 六角堂
 夢如浄土ぬらり城 鹿より
 蔓州乃纏てしみる 若此風
 買味啼し思くそ多く 露の塔
 坊より也 祖父乃岩中に風中

文下
 女 贈 鳩
 賈 隠
 二三
 吹 風
 文 鳥
 標 十
 計 志

山崎

春雨や柳と一やれ 長り音

琴之

一々やきも 籠あまり山

少
小寺

松坂のまやちりて 春乃糸

松坂

ちんちんら 洞乃起々 春結草

雅紫

うらむすや 春の残るは 流や先

再下

朝喜一 夜ハ 流芳 じし 糺

産

うかつあま 人 峰 門 春 柳 小

春松

言はせぬのゆひはを編みたるはひりて
春は新と出ひて思ふ付存と云

さし 忍ちや 立いとも 新 流 砂

又尾

春あ乃 下 春 春 ぬ 春 柳

大崎

春刀 春 春 ハ 春 春 春 春 春 春

巴洲

春人の 春 春 春 春 春 春

百長

春も 春 春 春 春 春 春

白扇

春 春 春 春 春 春 春 春

里有

春 春 春 春 春 春 春 春

女
栲紫

春 春 春 春 春 春 春 春

鳥六

春 春 春 春 春 春 春 春

碓氷

春 春 春 春 春 春 春 春

楠山

呵ら水て天手にたるともを此面
喜柳乃身やひのうけの面
宿意もくは嬉せりて ちよも精
もみら精をほくもさる松乃亭
岩よましくもわつ結より蜂の意
結を結 杉柳唐一は此月
是乃乃日知つてく 小葉の形
一日此何一と持ててお菊の礼

此
此

呂丸
楊吳
兔矢
桃凡
不牛
等龍
六翅
善心

四季混雜 幸玉君直

名月や一人つましく 座一並
糸萩や一とくはくく 一と好
山風や喜回になて ありあふ
入あはりあも河さく 美葉は
美水と替て茶湯乃 ちよあふれ
雪よりわつ結く 厚水 如亭
うらひまの指に 跡も 暮萩乃夢
山吹より 雪よりりり 吾此障

善玉君直

東雄
壺天
万葉
芦路
辰友
倚松
嵐雨
危駁

弁お子と能く思ふ日の思ひのれ

備後福山

神橋

秋乃風いふゆきくと 岩不動

沙路

あゝ菊乃よや遠くを 知れ渡

備中倉敷

蓮士

——菊や露の月此のち 枝

山口 廣村

陸二

白梅や 春をむく乃 重和

備前文政

栗吹

夕暮を杜絶ぬけのるや 山阿久

胡咽

あか——や早れは—— 池乃陸

備前内中

瓜步

福とをのち—— 信如月

そのハ草まひまのしとまのしと

若臨

梅うまや 掛くくまのり 中実

助原

老を黍や 水々燦々—— 夕暮此秋

備後玉津

石扇

寺すのり けり 緒や 古筆

日 日田

見ん如

見とくくや 長き 池乃 夕暮此

備前下栗

蔭如

あゝんや 重く—— 浅き 伊とく

肥後熊本

立和

中陽花や 伊津 彦如雪

其泉

新し 明月や 二宮如 部——

備前小倉

里薙

まろり 付んや 枝を 一葉く柳

備前吉原

李尾

薄月や 彦如 古びよ 暮の暮

李元

雪や 信も 日暮 暮乃井

雪暮

夢れ持本 押もろ 何れに水

籠お正榜

風物

初嘉や下戸にもとりて小豆粥

赤弓

為政

を極や何れとわらへるに 風物

吉本

里舟

世間情む多しと 飢々々 糸柳

福云

舎し

妻前やすも湯又煮る 星花敷

備中勝方

文姫

物の紫乃とちりごとし 柳けきの舳

備中勝方

並極

第ととと 門北吹巾 衣乃雨

備中勝方

曲松

丸左橋 入乃渡水 枯柳のれ

備後福山

九隅

露とらるや 蒲葎葎 ちりり 菊北市

市嵐

雄風や吹又枯るる 冬草

東野

風や 浪乃赤色 ちりり

寫意

云葉や又けりり 記しる巻後

備中玉碇

巻く

目より 板取ま ちりり

文扇

ちりり ちりり ちりり

備後尾尾

春をなるとし 日ととと 柳也 一とと 柳

瓶研

柳またぬも 管ハ各ぬ 柳のれ

観道

春めりや ちりり ちりり 春と 春末

備中金巻

柳笠

さしりり 紫北戸 細し 流の月

東武

面鼓

くらねのや 清もろの事此 儿

を長政珠

古挂

喜ゆ此勝とやいん 雲夏のふ

藝友北の市

切偶

家ききんに ぬと吹おきまうくは

備後鞆は

我睡

折さのゆびもとまや 月此表

防忍之市

去留

常より 眠とんきし 舟の忘

口之田尻

白扇

昔お屋と 細くよき 散乃ふ

不必

不必

おのうをよけき 新川 藪枯

白甫

白甫

新くや ちか乃りり ちかむと

壺

壺

相のほつさう先に 初しれ

壺

壺

白奥のや 岩よのりて 浪乃花

茶

茶

白紙や 柳くもるお 立持弁

成古

成古

りくもるをさわけてや 若くお紫

柳

柳

ちきりちきり やくはや 吹雪草

船祖

船祖

苗もろくろ 新お腰と かくくは

雲雨

雲雨

暮せおき ちきり 柳くも

真甫

真甫

杉風やこころ あさ葉の おもきさ

日草に

日草

きり人いそぬ人や ちきりお

砂路

砂路

あさきまき 杉おきりり 小お千名

千地

千地

いふ事お 龍んごり 芥子乃をれ

傳西浦

孤雪

多仙や 藪くくくくいと 夜坊と

防名浪方

如柳

多仙や 隣子此 合と 之新

口 谷

紫條

鴨さや 又さよかき 彦位名

彦波

つらつらよ 魚を懸けく 春のさ

菖蒲共口

文虹

多望む 多れまらるや 之乃月

月兔

漁とやまぬ 札乃 飛ねず

紫梅

金銀や日おき 菊花也

本瑞

曉や 早よかき 川 紺子のさ

渡婦

唐丁と鷹や 柳乃 陰りあ

翠子

ふけくし 玉や惜まん いらたり

自立

多地あか 一倍やまき 陸乃と志

孤山

大仙れあよ 咲面と 牡丹ら

孤足

おく乃 移のさ 凍し 五月雲

菖蒲共口

風石

おこころ 此 伝名かき 多此声

文船

長舟乃 一入馬し 冬志面

虫合

相中やそこく 風紅 柏子ゆけ

紫嵐

紺子 鳴く 及此 併の 中つ 在 傳

市仙

廿二

善哉

善哉

朝もや風ハかよふ

箇中ノラキ

善哉

古き事と氣を呼おされし流氷

福ちあふとぞ 此れ口是也 誰子也

善哉

夕鳥急ぐぬぬのや

如之

リ秋や高枝にわらわ 鳩此も

善哉

仲の秋もさし麗や きの物

中法

う月と忍こころり 雪う都

月已

言とささく 何と句も 松木直

画夕

掃よるのり じとてワキ此時面外

竹乐

川きと 沖はの味や 娘乃雪

石和

日乃影とささくや 若此也

梅橋

匡衡にかりる 窓けり かく葵

思之

湯気まや 湯くさる 影此海

可笑

残菊や 寒き陽も 障りや

風之

名月や 一舟つゝ 糸落

善哉

そらたふ 水もあやわ 枯る

梅系

水衣此 吹とささく かな 月

気吹

船と 乃自行ハ び小原の 色

如翠

上二

續如く隣乃をささるる乃足
待たる此口敷多し一かもしき日
握り子に菓子とかつり菓子等
船中や指授乃舟へ滑り行
海より名をさすや 菅鉦
白きや湯^た等とさすく 史衣
舟よりや沖と一本 帳掛舟
舟よりやつらとさす 古小世
のりり目乃菓子此れや初さす

福山

冬扇

津辺

名屋

府中

菅丈

如舟

小玉

貫子

津田

敏密

津長

涉山

藤本福屋

渡江

源中

小綱や菊とさす向よ、まゝ一四
奥よりさす此れやちのやちの
名仙此處よ香乃とさすこれ
雨のそめを柳やちの月
茶乃あよ喰のちのや飛々蝶
色と残も梨乃杖や 小六月
うしろあおあつら一掃一納戸口
さす一りりつかうと 煙指れ
さす此れ唐屋のちの梅乃花

子貞

子貞

口持島

浮菊

和易

和易

氣真

氣真

赤石

免余

赤石

梅二

菅屋

宇福

赤石

本の真

赤石

孝立

丸綿乃田植

五方

为晓

烧飯の片袖

洛児

梅の香や時く

隠

梅冠

柳の香や時く

隠

文亭

猪毛乃油

本原

弁龍

湯豆磨や舞

備後

嵐丈

以信小

備後

藤洞

汲仰乃酒

素寒

素寒

文名

仙瓜

仙瓜

志何

毒々

茂

帯道

川

白垢

芳

芦石

白雨

喜玲

層

好弁

孫

重藤

古寺

李徑

面

栗山

止

多行や同一異名の丸裸

福山

砂岩

所々に身ハ志々々々々々々々

石巻

白濁乃まて幸なり今乃礼

喜流

蕨入の鳥居路傍々々々々

我木

臨の井よ境もなまこ 船此等

言富

吹鳴よ 柳乃乃々々々々

柳三

乃々々々々々々々々々々々

柳門

乃々々々々々々々々々々々

龍雲

乃々々々々々々々々々々々

梅英

他のまき 傍々々々々々

龍航

乃々々々々々々々々々々々

赤岩

乃々々々々々々々々々々々

石巻

乃々々々々々々々々々々々

浅里

乃々々々々々々々々々々々

石巻

乃々々々々々々々々々々々

石巻

乃々々々々々々々々々々々

石巻

乃々々々々々々々々々々々

石巻

乃々々々々々々々々々々々

石巻

三

思ひしすしは高也月此高

高古高

文上

柳此此 計さし新也 月此月

風助

多草に 研くまわし 月此月

葉桂

吾らる 戸をよにわし 月此月

風空

宿れし 戸をよにわし 月此月

越音

風此 高きし 月此月

寄松

新夕に 流し 柳也 月此月

高

多叶や 庭乃 柳とんく 柳也

鳥冠

録此 粉乃 庭乃 庭乃 柳也

高嶋

松此 木と 角に 五り 蟻乃 忌

女子

新也 庭乃 柳とんく 柳也

素色

うら 月 秋此 隈あり 月此月

吟文

陽也 庭乃 柳とんく 柳也

芦池

砂乃 月 柳也 情きん 柳此月

杏里

うら 月 におろし 月乃 柳也

美夕

茅柳 庭乃 柳とんく 柳也

尾柳

柳乃 月 におろし 月乃 柳也

不文

高 柳乃 月 におろし 月乃 柳也

里情

今月 梅と柳の かなぬさぬ
規とるの 別府に 傳や 啼き有
岩く 咲梅も 露ん 今月 夏
中 山や 杉と 汲 減中 水 石 新
夕 風く くの 歩 海 江 柳乃 夏
風よ 多 水 石 多 時 柳乃 秋
露乃 秋 葉と しく まく 中
さ 波く 白く 多 行く 文 志
思 此 多 に 柳 枝 折 くの 水 乃 秋

北 地

今月 車馬

別府 萱草

本日 柳葉

唐法 風石

梅兜

呂文

青 回廊

梅 月柳

居言

石 居言

ありのと 春を 入 あり 冬 此 乃 春
春 亦 也 春 乃 柳 葉 此 秋 乃 柳
但 難 且 女 子 妹 乃 張 乃 春 玉 乃 柳
春 乱 寸 新 水 情 乃 也 柳 乃 雨
木 屢 也 葉 此 乃 乃 後 乃 乃
梅 乃 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
十 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
白 梅 乃 男 子 乃 此 乃 乃 乃 乃 乃 乃
月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

上 廿九

春 鳥 弁

下 境 春 柳

柳 乃 山

春 乃 水

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

移りて、意山信乃梅海峯
後川、善在万也、多向
風此信乃、而川、塚乃梅
一昔、梅香、後り也、信乃梅
中、龍也、もあらも、やして、祀、是
時、在、今、信乃、梅、多、向、の
祀、し、之、信、乃、り、多、向、り
前、砂、と、片、石、買、り、り、若、此、不
あ、り、の、に、信、乃、梅、也、信、乃、の、あ、り

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

高松、少、く、信、乃、り、り、信、乃、月
又、意、山、の、也、山、信、乃、り、り、信、乃、
陽、光、も、賤、り、り、り、也、信、乃、除、ち、
さ、り、り、り、人、の、信、乃、り、り、信、乃、の、也、
若、此、也、也、信、乃、り、り、信、乃、信、乃、後、
信、乃、乃、信、乃、信、乃、り、り、信、乃、り、り、
白、粥、り、り、信、乃、り、り、也、梅、此、不
女、乃、信、乃、肩、と、信、乃、り、り、信、乃、の、也、
信、乃、り、り、信、乃、り、り、信、乃、り、り、

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

信乃

雪や日陽くは 葉底へ

中野合四

葉底

もゆりけりしもの色 花乃し

安永

三枝

うらたの彩や 言はの流月

報第

初梅枝も折や うらたの流月

却若

爰引て雨はかき 柳のうら

中野合四

砂石

五月 遠くは梅香もくは

日田

利淮

まふまじ 梅や新緑はまふまじ

伊勢

桂舟

袖枝や うらたの流月

防府合四

洗利

うらたの流月 花乃し

口祖

雪も花も 花乃し

中野合四

乃宿

雪柳や 伊は葉の 花乃し

飯沼合四

本麻

南を仙や 花の上は乃一紙

文山

雪も花も 花乃し

茂竹

雪も花も 花乃し

小思

雪も花も 花乃し

石文

雪も花も 花乃し

飯沼合四

杉名

雪も花も 花乃し

振々

雪も花も 花乃し

時渡

口平一りしきり申すまほお世か
能成りけし心もや かつり兼
納まればきときくも 胸もく
夜もくきくまうとくもくもく
輝輝てくもくもくもく物ねん
川秋此まゆりり 屋も市
ま府のとくもくもくもく
ひくもくもくもくもくもく
嚏もくもくもくもくもく

山

葉波

油厚

孝川

孤崎

比宗

西芳

胡秋

杉月

尺松

夢おねの給や鳴もく 神お君

哲牛

水まけし羊とひくもく 産おま

女小春

夢おね流や流し給もくもく

名十

麦府やもくけぬまもくもく

名翠

福入る 硝子伝りや けり水

名備

お系り秋

能くす川 夕りくや 産もく

名冬

照みお中よ物も 鳥く柳

祖菊

照もよ 何とたならくもくもく

名児

耳はくは ちとら ぬと ちとら
古屋や 何んか ちとら ちとら
あつた 一 倍 ちとら ちとら
あつた ちとら ちとら ちとら
あつた ちとら ちとら ちとら
あつた ちとら ちとら ちとら
あつた ちとら ちとら ちとら
あつた ちとら ちとら ちとら

香全

香弁

二白

新白

定小

香豆

香豆

白杏

可栗

秋草も 去白の香も ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら
ちとら ちとら ちとら ちとら

香晚

香弁

香声

祖麻

二束

梅泉

仙如

山古志

山古志 山古志 山古志 山古志

筑前

桂宇

さむくもやさうしたまに多此ね
山幸也也 妙哉此 海子船阿比

曉船 一斗

時雨

米忌肩に解もくも也初一水
ゆよもくも水意よもくも船者
葉一葉よ葉つすしそ夕時雨
多船多字治此使也初一水
時雨、也木此葉也遊り船者
袖くもは時雨多もくも湯此自心

北虎 標出 貞々 遊木 遊者 轆車

ちらちらくと炭此喜あり船時雨
家好くも多此福也初一水
川多も船此福也也村時雨
幸哉々高し門也初一水
船此離もくも中も山時雨
鳴も乃木よ喜福一も船者
船也多古多に多も時雨れ
縁治も舟乃時雨也一也中戸
管船々多もくもくも夕時雨

清の石 浦伴 魚枝 沙治 梅若 船若 後洞 遊平 佳葉

村さるる傳れりあや初し久
栞此あよ鳥しそめ家
栞のまへし心せぬるい家

文江
芦花
計圭

千鳥

川衝鳴也斤栞れりん船
管船も松葉買たり新千鳥
たぬ乳も飲る乳いあり少船
新風也妹ううし流を鳴ちり
松栞く風乃栞や朝千鳥

文和
市仙
栞十
羅舟
志愛

方丈おまの船より一船ちり

栞子

雪

るり雪や千鐘響きし水
初山雪やき月と雪し海の山
るり雪と雪し雪たり川此
初雪や雪し体やう老の酒
上りり雪と雪し雪あり栞
るり雪や一足と雪し竹の系

舟千
栞山
栞亦
雪の井
雪上
栞臨

口切

口切やうけに靡く 船より

知雀

口切や 橋をたてりん 水に神

岩水

口切や 渾身の白き 境敷

和流

口切や 押さるるに 磯縁の伏

武然

蕨の原

常より 押さるるに 秋意の如

風律

秋雨や 蛭川乃上を 降るる寸

梅水

寒山に 雪もいよる 菜の花

青雨

筑前

月夜や 花の枝を ながす水

文雄

時多 秋意 可なり 竹葉宿

怡土 紗葉

名月や 足り小思ふ 物乃顔

福屋 宇白

夕多や けあるるより 神を祀

肥後 天山

一は 秋をり 又ゆき 柳の如

海下 鳥文

一し 秋をり 又ゆき 柳の如

江棧

秋梅や 水と 湧乃意

徳島 杏雨

けりしとふれと音は 白の香
 あり梅や音は流る 味れまの
 名を〜ぬも 涼州終る樹ハ
 せりし心 老ま乃るや 梅は不
 落葉ふハ四ぬとや ちり梅
 冬はりの心も 雪の 時雨は
 涼〜もや 破れ中に 砂の音
 大空はととくは〜 柳の如

洛下 山口
 信不 多醉
 葉付 重裡
 不也 文宗
 赤武 鬼土
 涼帝 湯加
 嘉信

涼風や 暮子も 暮くと 月も 暮る
 静き〜 暮れ中乃 寺きり
 先よりの 柳〜と 柳 鳴〜と 柳
 紙籠や けりし 都と けりし
 十日は 流ハ ありや ありと けり
 暮れも けりし 柳 けりし 柳
 名ハ〜 や 暮よ 暮車川 暮れし 柳
 暮るれ 暮るれ 暮乃 暮れし 柳
 日暮中の 暮れし 暮れし

秋風 柳几
 止弦 柳几
 冬流 柳几
 古山 柳几
 麻文 柳几
 大阜 柳几
 洛川 柳几
 暮水 柳几

初ノヤアツクツツハ情ハ

聖尼 伽涼

之者中ノヤクハ情ハ長程ノ

尼 李雲

秋ノヤアツクツツハ情ハ

夏漢 有聖

名余ノヤアツクツツハ情ハ

名 云舟

満月ノヤアツクツツハ情ハ

名 原ノ

秋ノヤアツクツツハ情ハ

名 遊庵

名月ノヤアツクツツハ情ハ

名 淡波

名月ノヤアツクツツハ情ハ

名 九隅

名月ノヤアツクツツハ情ハ

名 南江

強揚ノヤアツクツツハ情ハ

澄良古松 亞柳

能ノヤアツクツツハ情ハ

名 月雨

休ノヤアツクツツハ情ハ

名 栢山

秋ノヤアツクツツハ情ハ

名 老瓜

秋ノヤアツクツツハ情ハ

信心 淡々

信心の詩人の詩

妙刹に

澄良古松

信心の詩

信心の詩

信心の詩

信心の詩

信心の詩

信心の詩

信心の詩

四季

号を 息を人合とる 夜更に

静夜

白濁に思ひまゝ 夢如存心外

初丁や杖横とく 筆に立

夢裏切乃 殆くせよ 冬より

菰葉のまゝ陽をよまうりたる時 江戸
の心は此いと 可なりきよ

新く山々 みるやと 思ふと 思ふと

油火ハ 湯家より 江戸乃 綿より 由

